

施策評価シート(平成30年度)

(基本施策の大綱) 1. 快適さを支える生活基盤の向上

(基本施策) (3) 上下水道の充実

(評価担当者)

上下水道部長

宮崎 哲二

■ 基本施策が目指す姿

市民が、良好な水環境の中、おいしい水を利用しています。

■ 関連する分野別計画

亀山市新水道ビジョン

■ 成果指標

		単位	現状値		実績値					目標値
					H29	H30	R1	R2	R3	
1	上水道の有収率	%	89.2	H27	90.8	91.2				92.6
2	汚水処理人口普及率	%	86.2	H27	88.0	88.2				90.0
3	水道事業会計の経常収支比率	%	109.07	H27	108.59	120.39				110.00
4	公共下水道事業会計の経常収支比率	%	103.19	H27	102.92	103.95				100.00
5										

■ 市民アンケート調査

項目			現状値 [H27]	1次 [H30]	2次 [R2]	市民アンケートの考察
1	安全でおいしい水が供給されている	重要度	1.60	1.61		
		満足度	0.96	1.05		
2	生活排水が適正に処理されている	重要度	1.48	1.42		
		満足度	0.66	0.71		
3		重要度				
		満足度				
4		重要度				
		満足度				
5		重要度				
		満足度				

■ 総合評価

総合判定	左記の総合判定とした理由
B	安全でおいしい水の安定供給については、老朽管の更新・耐震化、緊急遮断弁・応急給水塔の設置、水量水压不足解消対策を計画的に進めるなど施策の推進が図れている。生活排水対策の推進については、公共下水道の未普及地域での計画的な整備、浄化槽設置補助金の交付により、汚水処理人口普及率が向上した。農業集落排水では、最適整備構想策定のための機能診断の実施など施策の推進が図れている。上下水道事業の健全経営については、水道料金の改定やクレジット収納の導入による財源確保に努めるなど、施策の推進が図れている。個別の判定では、1施策でA、2施策でBとしている。また、施設整備などで、事業調整に時間を費やし、一部を令和元年度への繰越があったことから、総合判定をBとした。
まずまず進んでいる	
反省点・課題	
上水道事業については、水道施設や配水管の老朽化対策や耐震化、震災対策を計画的に進めるために、有収率の向上、水道料金の収納率の向上を継続して取り組み、財源確保に努める必要がある。公共下水道事業については、国庫補助金の活用により未普及地域への整備を計画的・効率的に進めるとともに、下水道への接続の促進、下水道料金の収納率の向上に努める必要がある。また、老朽施設の長寿命化対策も同時に進める必要がある。農業集落排水事業については、老朽施設の修繕・改築・更新等の計画を策定する必要がある。	

今後の展開方針

上水道事業については、安全でおいしい水を安定的に供給できるように、亀山市新水道ビジョンに基づき、水道施設や配水管の更新・耐震化・震災対策を進めるとともに、口座振替、クレジット収納を促進し財源確保に努める。公共下水道事業については、亀山市公共下水道事業計画、亀山市公共下水道管路施設長寿命化計画、亀山市下水道事業経営戦略に基づき、未普及地域の整備、管路の長寿命化対策を進めるとともに、各種補助事業を活用して財源確保に努める。農業集落排水事業については、機能診断を基に施設の更新等を計画するに当たり、ライフサイクルコストの縮減や平準化を図るための農業集落排水施設最適整備構想を策定する。

(施策の方向に関する評価)

施策の方向		安全でおいしい水の安定供給							
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】			評価	【左記の活動により、施策は推進できているか】			
B	活動	安全でおいしい水の安定供給のため、老朽管の更新と耐震化に努めるとともに、新神辺配水池に緊急遮断弁、応急給水設備を、関第3配水池に応急給水設備を設置した。さらに、水量水圧不足解消のため、亀山・関テクノヒルズ加圧ポンプ室を完成させ、川崎加圧ポンプ室の建設工事に着手した。また、加太浄水場非常用発電装置などの老朽設備の更新を行った。				水道管及び水源地等の施設設備の計画的な更新と耐震化を図ることや、加圧ポンプ施設の整備により水量水圧不足の解消及び緊急遮断弁、応急給水設備の整備を図ることで安全でおいしい水の安定供給につながっている。			
まずまず進んでいる									
関連事業	番号	事務事業の名称			区分	予算額/決算額 [千円]		活動	成果
	17011	水道生活基盤整備事業			主	42,984 / 42,984		B	B
	17106	亀山・関テクノヒルズ給水機能強化事業			主	91,859 / 70,737		A	A
事業以外の取組	内容							活動	成果

施策の方向		生活排水対策の推進							
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】			【左記の活動により、施策は推進できているか】				
B	活動	公共下水道施設整備事業については、未普及地域の管路整備を計画的に実施した。長寿命化対策事業については、国補助金の追加補正を受けることができ、工事は繰越となったが整備率の向上に努めた。最適整備構想策定事業については、昼生地区を除く13地区において機能診断調査を実施し、計画どおり各施設の状態把握に努めた。			評価	公共下水道管渠整備は幹線整備が多く、公共下水道普及率は微増にとどまったが、汚水処理人口普及率は計画どおりの進捗が図れた。長寿命化対策も、整備率の目標を達成しており、ライフサイクルコストの低減を図り、施設の適切な維持管理に取り組めた。また、来年度に計画している農業集落排水施設の最適整備構想策定に向け施設の劣化状況が把握できた。			
まずまず進んでいる									
関連事業	番号	事務事業の名称			区分	予算額/決算額 [千円]		活動	成果
	17012	公共下水道施設整備事業			主	552,080 / 552,080		B	B
	17013	下水道管渠長寿命化対策事業(みどり町、みずほ台地区)			主	24,100 / 24,100		B	B
	17014	農業集落排水施設最適整備構想策定事業			主	32,000 / 30,564		A	A
事業以外の取組	内容							活動	成果

施策の方向		上下水道事業の健全経営						
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】			【左記の活動により、施策は推進できているか】			
A	活動	上水道事業については、平成30年3月に策定した新水道ビジョンに基づき、水道水の持続的供給と健全な事業運営に努めた。また、クレジット収納の導入により、市民の利便性向上を図った。 公共下水道事業及び農業集落排水事業について、策定した経営戦略に基づき、経営基盤の強化と財政マネジメントの向上を図った。			評価	上水道事業について、平成30年4月からの水道料金改定により、収入の確保につながり、健全な事業運営の継続に寄与できた。 公共下水道事業及び農業集落排水事業について、経営戦略に基づき安定的かつ継続的な運営に向け取り組むことが出来た。		
		順調に進んでいる						
関連事業	番号	事務事業の名称			区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
						/		
						/		
事業以外の取組	内容						活動	成果
	水道料金改定						A	A